

# 3

## ひろがれ人権ネットワーク



2026  
Vol.535

# 人権啓発紙 隣保館だより

ホームページURL  
<https://www.city.miki.lg.jp/site/sou/gourinpokan/>



### 3月は自殺対策強化月間です



核家族化の進行や地域社会のつながりの希薄化などにより、子育てに悩みを抱え孤立感を募らせる親が増えています。今回の「人権の小窓」は、そのような親に寄り添い、子育て支援や居場所づくりに取り組んでいる市内「NPO法人ほっぺ」代表、大森奈津子さんの提言をお届けします。

- 次ページ 「人権の小窓」(286)  
「最近の親は甘い」という前に  
—その背景を想像することから始まる子育て支援—  
NPO法人ほっぺ代表 大森奈津子
- 裏ページ ・3月隣保館カレンダー・人権リーダー育成講座  
・令和7年度編集後記

## 「最近の親は甘い」という前に —その背景を想像することから始まる子育て支援— NPO法人ほっぺ 代表 大森奈津子

スーパーマーケットで、床に寝そべって泣き叫ぶ幼い子ども。そのそばで、母親が静かに声をかけながら寄り添っている姿を見かけることがあります。多くの方が「どうして叱らないのか?」「最近の親は甘い!」と感じるかもしれません。しかし、子育て支援の仕事で長く乳幼児親子と過ごしてきた私には、少し違う光景として映ります。

幼い子どもにとって、スーパーマーケットは刺激が強く、心が処理しきれなくなる場所であることがあります。大人が思う以上に、あの場所は「がんばりすぎている子ども」の心が表に出やすい場所なのです。泣き叫ぶのは、わがままではなく未熟な心が出せる精いっぱいSOSです。



そして、それに向き合っている親もまた、「あーまたか!」と思いながら、実はSOSを出したいほどあせっているのです。叱らないのではなく、叱ってもこの場は落ち着かないことを知っているからこそ静かに寄り添っている。私は現場で、その大変さを何度も見てきました。

ここで、ぜひ想像していただきたいのです。今の親子を取り巻く環境は、昔とは大きく変わっています。家に帰って、  
「今日スーパーで大変だったんだよ」と気軽にこぼせる相手が、今の親にはほとんどいません。核家族が普通になり、実家は遠く、頼りたいときにすぐ頼れない。

## 筆者プロフィール



大森奈津子 (おおもりなつこ)

保育士・子育て支援カウンセラー。神戸の私立幼稚園に勤務後、子育てを経て三木市立幼稚園、さらに市内児童館で経験を積む。保育と支援の両面から親子に寄り添う活動を続け、地域の中で安心して過ごせる場づくりを目指し、NPO法人ほっぺを立ち上げ現在も精力的に活動している。



また、たとえ近くても、祖父母世代はまだ働いていて、忙しくしています。

「ちょっと聞いてよ！今日、お菓子売り場のだ真ん中で、この子泣き叫んだんだよー！もう恥ずかしかった」

その何気ない一言を伝える人が身近にいない――。

孤立感の中、親は公共の場で子どもと向き合っています。

だからこそ、あの一場面を「甘やかし」「しつけ不足」で片付けてしまうと、親子をさらに追い詰めてしまうのです。昔は、そうではありませんでした。近所に相談できる人がいて、周りの大人同士が自然に子育てを支え合っていました。



もし、スーパーでそんな光景があったとしたら、

「アラ！大きな声で何泣いてるの？」などと、温かい一言を残しながらその親子を見守ることもあったのではないのでしょうか？

しかし今の親たちは、ほとんど一人で子育てを抱えています。

だからこそ、昔の基準で「甘い」「礼儀がな

い」と断じてしまうのではなく、その背景にある事情や気持ちを想像することを求めたのです。

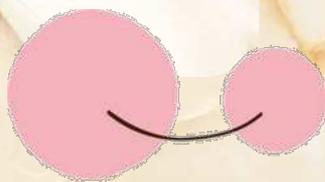
私は子育て支援の現場にいる者として、こう考えています。

泣いている子ども、その子に寄り添う親、その様子を見たときに、ほんの少し「大変だよね」と心の中でつぶやいてもらえるだけで、その親子は救われます。



子どもも親も、社会の中で安心して存在できること。そのためには、私たち大人が、目の前の“行動”だけでなく、その“背景”を想像する努力を持つことが欠かせません。

井戸端会議もない、ご近所づきあいもだんだん少なくなっている今、「他人の子」と思うのではなく、「未来を築いていく子どもたちを、愛いっぱい社会で育てていこう」。これからの時代に必要な「子育て支援」の形なのだと、私は思っています。



HOPPE

「NPO法人ほっぺ」は、時代の変化や家族のかたちに合わせて、すべての親子の「今」に寄り添う場所です。

子育ての悩みや迷い、成長の喜びを一人で抱え込まず、安心して立ち寄れる居場所でありたいと考えています。乳幼児期から学童期まで、その時々に必要な関わりやサポートを大切にしながら、親も子ども自分らしく過ごせる時間を一緒につくっていきます。

ほっぺ公式ホームページ  
<https://hoppe-npo.com/>



# 3月 隣保館カレンダー



MARCH

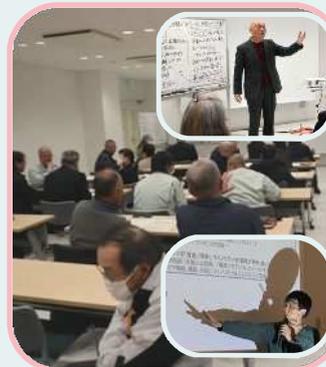
日	月	火	水	木	金	土
1	2	3 全国水平社創立記念日 耳の日	4	5	6 人権相談（緑が丘町 公民館）13:00～	7
8 国際女性デー	9 エアロビクス講座 14:30～	10	11	12 手芸サークル 13:30～ 人権相談（吉川支所） 13:00～	13 経営・職業相談 10:00～	14
15	16	17 経営・職業相談 10:00～	18	19 人権相談（三木市役所） 13:00～	20 春分の日	21 茶道教室9:00～ 書を楽しむきらきら教室 13:00～ 国際人種差別撤廃デー
22	23 エアロビクス講座 14:30～	24 経営・職業相談 10:00～	25	26 手芸サークル 13:30～	27 経営・職業相談 10:00～	28
29	30	31 国際トランスジェンダー 認知の日				

三同教の「2026年度じんけんカレンダー」が完成しました。公共施設や各自治会に配付いたしますのでご活用ください。



## 人権リーダー育成講座を開催

人権推進課・教育委員会共催事業「人権リーダー育成講座」を2月4日（水）、市立中央図書館で開催しました。市内各公民館長・まちづくり担当や人権教育指導員ほか市内人権教育・啓発を推進する指導者・一般市民ら約40名が参加。「参加型学習で人権を学ぶ～マイクロアグレッションを中心に～」をテーマに、大阪教育大学名誉教授、森 実さんと、アジア太平洋人権情報センター（ヒューライツ大阪）研究員、朴 利明さんお二人の講義を受けました。



### セッションⅠ（森さん）

「なぜ人権を学ぶのに参加型学習なの？」  
参加型学習の活動例「伝言実験」を参加者が体験。差別が不確実な伝言や「うわさ」により伝播・拡大することを体験的に学びました。

### セッションⅡ（朴さん）

「マイクロアグレッションを知る」  
「それはあなたの気にしすぎ」と言う前に～日常の見過ごされやすい差別（マイクロアグレッション）を学ぶ  
さまざまな事例をもとに、多数派と少数派の受け取り方の違い等について学習しました。

## 令和7年度編集後記

1年間ご愛読賜りありがとうございました。本年度は、三木市立総合隣保館の取組をはじめ、「人権の小窓」欄で、人と人の温かいぬくもりが感じられる人権尊重のまちづくりを目指して活躍されている三木市内の各市民グループや行政・教育関係機関の諸活動、人権に関する知識・理解を深める学識経験者の提言等を掲載いたしました。ご寄稿いただいた執筆者に感謝いたしますとともに、市内の人権ネットワークが広がることを願ってやみません。読者の皆様のご意見・ご要望をお寄せくださいますようお願いいたします。

（編集担当 澤田 薫：人権教育指導専門員）

人権啓発紙「隣保館だより」3月号

令和8年3月1日発行

三木市市民生活部人権推進課 編集

〒673-0501 三木市志染町吉田823

三木市立総合隣保館

TEL0794-82-8388 FAX 0794-82-8658

E-mail:jinken@city.miki.lg.jp